

令和3年11月29日(月)
令和3年度 第2回
大阪府河川構造物等審議会
三大水門景観検討部会

参考資料
6

新安治川水門アイデアコンペ 入賞作品

●最優秀賞（1作品）

整理番号	011	応募タイトル	海の手門
------	-----	--------	------

海の手門

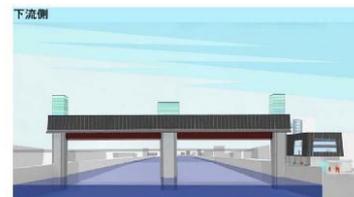
市街地を抜け大阪城へとつながる安治川。
安治川の入口に建つ安治川水門は、水都大阪の海からの玄関であり
「海の手門」というのにふさわしい。
この地の歴史、文化を尊重し、そこから引き出されるデザインコードをもとに
未来につなげる提案をしたいと思います。



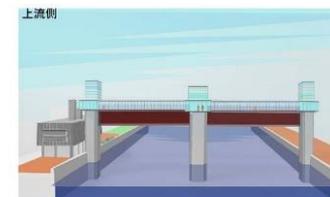
安治川水門:「海の手門」昼と夜の表情

5

外に対しては壁中に、内に対しては開かれ、二面性のファサードを持つデザインとしました



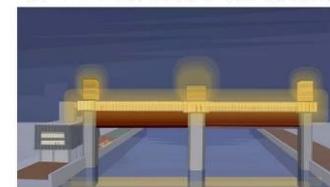
入港時、下流側から見る
壁状な表情で、大阪のまちを守ります。



出港時、上流側から見る
二段式ローラーゲートは在揚時の見付け面積が小さく閉塞感の解消が出来ます。



照明の点灯によって、上流側下流側同時、あるいは個別の点灯でその表情が変わります。
全点灯、照度強の点灯、足踏歩廊の点灯、門柱の点灯等、組み合わせで、様々なシーンで演出が可能となります。



《審査員の主な講評》

- 水門を大阪城の大手門のイメージでとらえ、管理棟を檣に見立てている。（杉村審査委員）
- 現実的なデザイン。上下流の視点を考慮したデザインや夜間照明を利用するなど、細かい工夫が感じられる。（山上審査委員）
- 歴史や大阪らしさに力点を置いた基本コンセプトが示され、基本コンセプトに基づいたデザインが提案されている。また、施設毎の機能、構造、仕様が具体的である。（岩田審査委員）
- 全体に照明の利用が巧みで、方向による景観の違いも興味深い。（澤井審査委員）

入賞作品の紹介

●奨励賞（3作品）および審査員特別賞（1作品）

（奨励賞）帰ってきた「まちみなと」 Benten Biennale



（奨励賞）NEW GATE ベイエリアと都心部を結ぶ場所

NEW GATE

ベイエリアと都心部を結ぶ場所

安治川水門は、時代の変化とともに人々の生活に寄り添ってまた存在である。これまでも自然災害から人々の命を守るという線の下力持ちの役割を果たし、これからもその役割を担っていく。

そして近年の大阪の活発なまちづくりは安治川水門にこれまでも異なる表舞台的な役割を与えようとしている。

それは人々を迎える新しい「門-gate-」下流側にあるベイエリアへ、または上流側にある中之島など大阪の都心部へ通じる門としての役割である。

本提案では、その向エリアを結ぶ場所として安治川水門周辺及び弁天埠頭を捉え、大阪のまちを陸上や海上で行き交う人々の交流そして余暇空間を整備する。



（奨励賞）BENTEN 2050

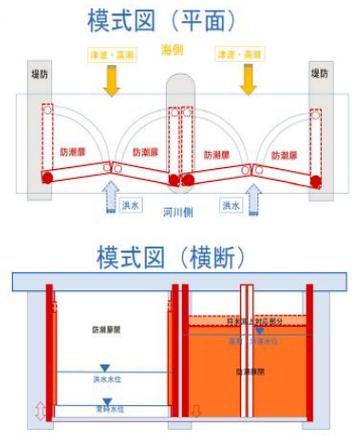
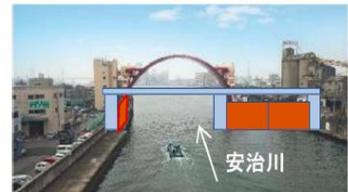


02 Daily Mode ⇄ Disaster Mode 平常時・水都大阪のゲートとなる水門



（審査員特別賞）「安治川いいであいプロジェクト」

新安治川水門イメージ図



◆公開プレゼンテーションの様子

※二次審査（審査状況）の様子は非公開



4.水辺空間の提案 新安治川水門と護岸③ 7

護岸とストリートファニチャー

配置図

水辺スポット (他地点にも設置)

地図: OpenStreetMap

デザイン 検討のポイント

護岸は鉄筋コンクリート造で、表面はコンクリート打放し仕上げとした。一定区間ごとに水辺に近づけるスポットを設け、ライトアップによる空間景観を楽しむことができるようにした。なお通常時は護岸の点検場所として利用することを想定している。

スポットには、ストリートファニチャーとして案内板やベンチを設置する。ストリートファニチャーには、約50年の間継の下の力持ちの役割を果たしてきた現水門を今度はより人々の身近で活躍できるように現安治川水門解体時に出る材料を使用して製作し、アーチ(円弧)部材を取り入れたデザインを検討した。ストリートファニチャーは弁天埠頭の屋外広場等にも設置することを想定している。

水辺に近づけるスポット scale1:200

夜間のライトアップの様子

ストリートファニチャー① シェルター

シェルターは案内板の設置場所や駐輪場としても利用できる。また円弧部の材の先端部分に照明を設け、夜間の道路照明としても利用できるようにした。

ストリートファニチャー② ベンチ

ベンチは、足元を照らすことで夜間のライトアップツールとしても利用できるようにした。



【参考】 YouTube Live 視聴数 約75人